

3 生物多様性 環境保全への取り組み

建設会社が、米作り?と驚かれることも少なくありません。

しかし、「田植えをして、稲を育て、稲刈りをし、米を収穫する」ことは「ものづくりの原点」でもあります。

私たちは、このような環境活動を通じて、今後も環境保全・地域貢献に積極的に参加してまいります。



緑の水田プロジェクト



2019年 春/田植え



2019年 秋/稲刈り

生物多様性を守り

米の消費拡大や地域産業の活性化を促進する

「緑の水田プロジェクト」は、当社の経営理念「建設事業を通して人と自然の最適環境づくりに貢献する」のもと、2013年に立案され、2015年5月1日の田植えより取り組みを開始しました。

このプロジェクトは休耕田に水田を甦らせ、「ニホンアマガエル、コモリグモ、アキアカネ、ミジンコ、イトミミズ、ドジョウ、アメンボ、カブトエビ、ホウネンエビ」など多くの生物が生息する水田の生態系を保全することに加え、米の消費拡大や、地域産業の活性化を目的としています。



収穫した酒米から製造されたお酒やもち米は、贈答用、祭事用として活用されます

アカウミガメの救出・海岸清掃活動



アカウミガメの救出大作戦

うみがめが産卵のために上陸する、高知県高知市春野町東諸木の海岸で、「大部分が砂に埋まった古い消波ブロックの間に、アカウミガメが乗り上げて動けなくなっている」との一報を受け、付近で海岸堤防の耐震化工事を行っていた当社職員が地元の方と協力し、アカウミガメを救出しました。

◀体長900~1,000mm、重さは100キロほど。工事関係者を含む10人ほどが駆けつけ、カメを持ち上げて救出し、海へ返しました。救出してみると、カメの前足には「タグ」がついており、この海岸での産卵常連さんでした。



救出されたカメは無事に海へ帰っていきました

工事業所では、『ウミガメ保護活動専用』の昇降階段を設け、うみがめの救出が必要になった際すぐに砂浜へ降りられる工夫や、付近の海岸の清掃活動を行い、うみがめの保護活動を展開しました。

